



持続可能な社会を担う子供たち

校長 五十嵐 俊子

猛暑の夏休みが終わりました。全国で大雨による被害が多発してしまいました。『数十年に一度の・・・』という言葉が繰り返し流れ、気候変動の影響を身近に感じさせられました。今年の夏のような気候変動の影響は、今後も起こり得ることが予測されています。地震・水害等の災害は必ず起こることを頭に入れ、命を守るために日頃から意識して備えると同時に、社会全体でどう災害に向き合っていくのかを、みんなで真剣に考えていくことが必要な時代になってきました。明日は防災の日。そのいい機会になると思います。8日(土)の「町五 Safety Day (親子防災訓練)」、23日(日)の「地域総合防災訓練」にも、ご参加ください。

気候変動は、日本だけでなく地球規模の課題です。SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) で、持続可能な世界を実現するために示された17のゴールのうちの一つです。SDGsは、3年前の国連サミットで採択され、この理念は、新学習指導要領の全体にかかわる前文にも盛り込まれています。具体的には、「多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」と明記されています。SDGsに掲げられている「誰一人として取り残さない (No one will be left behind)」というスローガンは、「一人一人のかけがえのない命やお互いの存在を大切にすること、一人一人の子供を大切にし、一人も取り残さないこと」という本校が大切にしている理念とも合致しています。

さて、先週末に、本校の教員たちとSDGsの研修会に参加してきました。国連関係者、NPO団体の方々と、全国から校種を越えた教育関係者が集まりました。たくさんの事例発表の中に、都立高校の生徒たちの提案発表もありました。生物の授業で、ボルネオ島でのプランテーションによる森林伐採の話聞いてから、文化祭終了後に捨てられた大量の廃材を自発的に回収するアクションを起こしたそうです。自分たちの身近なことから社会貢献できることまで、様々なアクションを起こし、学校での学びを社会につなげていることに感心しました。さらに、持続可能な取組を伝えるパッケージデザイン等を考案し、企業の方に商品に採用してもらえるようプレゼンする取組も行っているそうです。驚いたのは参観者に求められて話した彼らの感想です。「自分のことより、人のためや社会のために行動している方が楽しい。何かしたくてウズウズしている。」「大切なことは続けていくことだと思う。」「人間が一度手をつけたことは、最後までしっかりと責任をもつべきだと思う。」「(まだ大学入試改革の制度が始まっていないので) いろいろ覚えなくてはいけない受験勉強もあるけれど、実際に何か人のためになることを考えて、行動している方がワクワクする。」さらに、教える先生方へのお願いまで飛び出しました。「一斉授業よりアクティブ・ラーニングをもっと取り入れてほしい。」「意味のない形式的な課題を出すのはやめてほしい。自分で考えて追究する課題にしてほしい。」・・・。なんと頼もしいパワフルな高校生たちでしょう！発表を聞きながら、地域で共通のビジョンを掲げ、校種を越えて未来の人材を育成していきたいと思いました。さっそく今月は、南大谷小・南大谷中と本校の3校の教員達が集まり、小中連携研修会を開きます。テーマは「SDGs」。研修会で見たパワフルな高校生を指導した都立高校の先生を講師としてお迎えする予定です。



気候変動に Society 5.0 社会の到来。町五小では、これからの未来を見据えて、生き抜く力をつける教育を始めています。地域で何か問題が起きたときも、知恵を絞り、みんなで力を合わせて解決に向かう力です。大災害時にも、きっと頼もしい助っ人になってくれるでしょう。総合的な学習の時間「町五 エンジョイ ラーニング」は、その思いを込めて本年度からスタートさせました。11月の学習発表会で、学習の成果をご覧ください。